



海士町【島根県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成30年3月 ■ 人口：2,300人 ■ 面積：33km²
■ 担当課：海士町教育委員会地域共育課（平成30年3月現在）



海士町には、平成30年(2018)3月までに34件の指定文化財があるが、その他にも未指定の貴重な海士町遺産が数多く存在する。しかしながら、それらは十分に調査・整理がされておらず、現状のままではそれぞれが気づかれないうちに破棄され、伝統文化の外形は残っても本質が失われることが危惧された。海士町歴史文化基本構想では、海士町の知られざる海士町遺産を悉皆調査するとともに、整理を行い、今後の保存活用の方針を策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

大地の成り立ち、独自の生態系、後鳥羽上皇
北前船交流文化、御食国

課題

- ・文化財の保存活用体制を整える
- ・海士町の歴史、文化の継承
- ・文化財に対する興味関心の向上

保存活用方針

- ・「海士町遺産保存活用地区(エリア)」の設定
- ・継続的に海士町遺産を調査し、資料館等での活用
- ・学校教育・社会教育に海士町遺産を活用し、ふるさと教育に生かす

保存活用のための取り組み

継続的な海士町遺産の調査

暮らしの中に息づく文化や歴史、その周辺環境などを含む、海士町遺産の調査・保存を、今後も計画的に進める。また、そのために、住民と行政が地域に根付いた歴史文化の情報を共有しながら、一体となって継承し、これらが持続可能になる組織を整えていく。



歴史文化と自然の一体的な保存

海士町の歴史文化は地形や気候など自然に大きな影響を受けている。「大山隠岐国立公園」「隠岐ユネスコ世界ジオパーク」の範囲に含まれていることから、歴史文化と自然は一体的に保持していくことが期待されている。海士町では5つの保存活用区域を設定し、地域資源としての文化財の価値を地域住民が理解し教育および地域振興に生かす仕組みづくりに取り組む。



ふるさと教育への活用

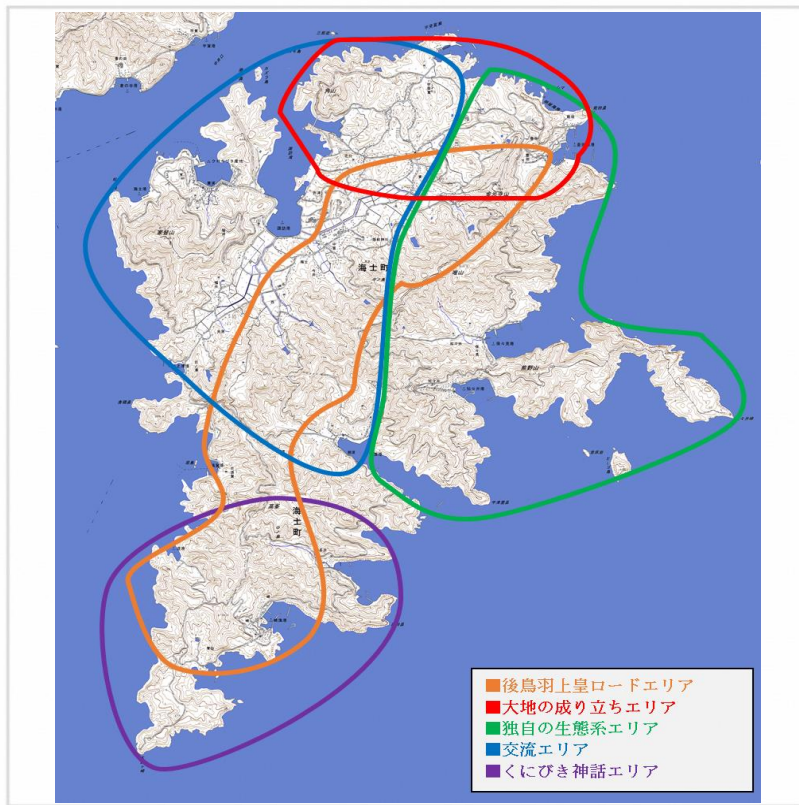
海士町では、島前高校魅力化プロジェクトを中心に、教育のブランド化に力を入れている。学校での学習だけではなく、地域、家庭との連携を深めた教育を推進している。学校教育や社会教育において、海士町遺産を分かりやすくまとめることで、より授業や講座の素材として教育利用を活発に行い、地域住民の地元愛・興味関心を高めていく。



観光資源としての活用

従来の歴史・文化を活用した観光ツアーは年々人数が減っている。今回、海士町遺産の魅力や新知見をとりまとめ、島外を対象に海士町遺産を活用した新たな観光や、移住希望者に向けて定住促進等の魅力の1つとして利用を目指していく。

海士町遺産の保存活用区域



海士町遺産は地理的要因に起因する交流文化などの独自性が特徴である。そのため、歴史・文化・自然をそれぞれ共通項別に分布域としてまとめ、5つの保存活用区域（エリア）を定めた。その中の1つ「後鳥羽上皇ロードエリア」では、承久3年(1221)に後鳥羽上皇が御配流されることになった歴史的背景及び、海士町に上陸してから行在所を中心として生活されて崩御するまでの19年間の軌跡をたどることが出来る。

エリア

- ①後鳥羽上皇のロードエリア
- ②大地の成り立ちエリア
- ③独自の生態系エリア
- ④交流エリア
- ⑤くにびき神話エリア

策定後の成果（見込まれる効果）

① **海士町の歴史、文化継承への貢献**
海士町では高齢化がすすんでいる。このため、歴史・文化を後世に引き継ぐための手法の整備が必要であった。海士町歴史文化構想策定により、各地区で個別に存在している歴史、文化を統一的に把握できるようになることで、継承に必要な事項が明確となり、的確な取り組みやサポートを行うことができるようになる。

② **ふるさと教育の充実**
学校教育では、海士町遺産を学習することで、歴史文化の特徴をより深く理解することが可能となる。また、社会教育においては、ふるさと教育の一環として郷土愛を育むための手段に繋げていくことが可能となり、海士町の教育の一翼を担う事が出来る。



③ **海士町の魅力化**
海士町の歴史文化は離島という環境と大地の成り立ちに起因し、島外との交流により形成された海士町独自のものとなっている。それらをこの構想で明確化することで、その認識が容易になり、海士町の魅力を再発見することが出来た。このことは、観光客や移住者に対する確に魅力を発信することが可能となり、さらに海士町の交流文化の継承も効果的に行われる。